

耐震対策のてびき

—  福山市 —



このてびきは、地震防災マップの活用と住まいの耐震対策の一例を紹介したものです。市民の皆様一人ひとりが、これらの耐震対策に取り組むことで、『災害に強いまち』をつくることができます。さあ、災害に強いまちづくりへ！



福山市に大きな影響を与える地震とは？

「広島県地震被害想定調査報告書（平成 25 年 10 月）」では、福山市に大きな影響を与えると想定される地震は、つぎの 3 種類です。福山市では 2017 年（平成 29 年）3 月に、福山市耐震改修促進計画（第 2 期計画）を策定するとともに、地震防災マップ（揺れやすさマップ、地域の危険度マップ）を更新しました。

①南海トラフ巨大地震

南海トラフ沿いのプレート境界を震源域とする地震であり、今世紀前半にも発生のおそれが指摘されています。福山市内で想定される最大震度は 6 強です。

②長者ヶ原断層－芳井断層

本郷町付近から長者ヶ原をとおり芦田川右岸の山守橋付近まで及び福山平成大学北側付近から北東方向に約 2 km が断層と想定されています。福山市内で想定される最大震度は 7 です。

③ どこでも起こりうる直下地震 (福山市庁舎の直下での地震発生を仮定)

直下型地震の場合、地震の断層が地表に現れない可能性があります。こうした地震はいつ、どこで発生するか分かりません。福山市内で想定される最大震度は 7 です。

お問い合わせ先：建設局建築部建築指導課

福山市東桜町 3 番 5 号

T E L : 084-928-1103 F A X : 084-928-1735

E-mail : kenshi@city.fukuyama.hiroshima.jp

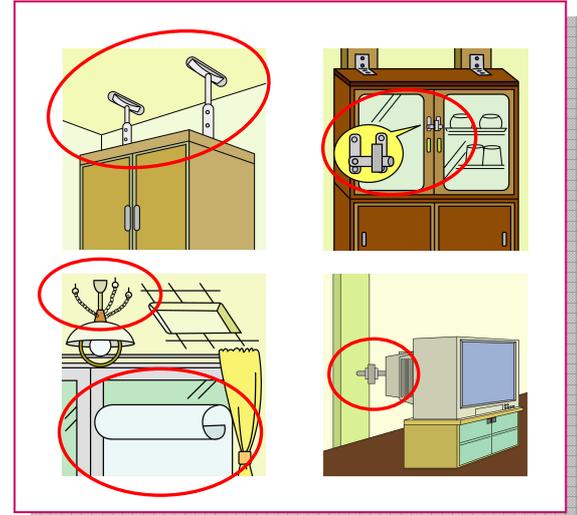
◆ まずは、身近な耐震対策を！

家の中の耐震対策

◆ 家具の転倒や落下を防止する対策をとる

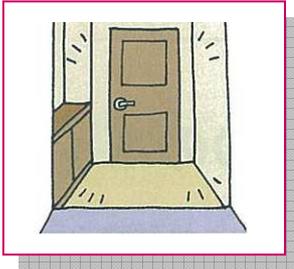
重い家具や背の高い家具は、固定器具や「耐震粘着マット」などを利用し、転倒を防止する対策をとりましょう。ただし、金具や支え棒の場合、天井や壁に相応の強度が必要なので注意しましょう！

特に、就寝中に地震に襲われたとき、倒れやすい家具があると危険です。寝室、子ども・高齢者などの部屋には家具を置かないようにするか、家具の配置や固定に十分な注意が必要です！



◆ 出入り口や通路には物を置かない

地震時に安全に避難するため、家具は転倒や移動によって出入り口をふさがないように配置にし、日頃からの整理整頓も大切です！



家の周囲の耐震対策

◆ 窓ガラス : 飛散防止フィルムをはりましょう！

◆ プロパンガス : ボンベを鎖でしっかり固定しておきましょう！

◆ ベランダ : ベランダからの避難を想定し常に整理整頓をしましょう！植木鉢などは落下しないように固定を！

◆ ブロック塀 : 土中にしっかりとした基礎がないもの、鉄筋が入っていないものは補修を行い、ひび割れや鉄筋のさびも補修しましょう！



◆ 「地震防災マップ」を活用しよう！

地震被害を軽減するため、地震時の防災対策検討などに活用する目的で作成した「地震防災マップ」は、市内の各公民館などに掲示されるほか、福山市のホームページ（URL：<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/>）でも公開しています。このマップを使って、家族や地域で地震災害について話し合みましょう！

「地震防災マップ」を印刷しよう！

- 福山市のホームページにアクセスし、「地震防災マップ」をクリックします。
- まずは「揺れやすさマップ」で、“福山市全域でどのくらいの震度が予測されているか”を確認しましょう！
- 次に、自分が住んでいる地域の図郭をクリックすると、拡大された地図が表示され、自分が住んでいる地域の震度がわかります。
- 「地域の危険度マップ」では、自分が住んでいる地域の被害予測を確認することができます。

福山市ホームページ内の
「福山市地震防災マップ」
にアクセス！



「地震防災マップ」を活用しよう！

印刷した「地震防災マップ」を使って、家族や地域で「ぼうさいマップ」を作りましょう。地域の自治会（町内会）などでみんなで話し合いながら、地域ならではの『ぼうさいマップ』を作り、防災対策を立てましょう！



◆ 地域の『ぼうさいマップ』作成方法（例）

- 印刷した地震防災マップ（拡大版）を、地域の大きさにあわせて、張り合わせましょう！
 - 張り合わせた地図を使って、「ぼうさい」という視点からもう一度、自分の住んでいる地域を見直してみましょう。『注意するところ』、『気になるところ』を発見した場合、地図内に書き込みを行ったり、写真を取ったり、ノートにメモを取りましょう！
- また、まちに出て調査を行う場合は、交通事故に十分注意しましょう！

※ 準備するものは・・・？

- ・地震防災マップを張り合わせたもの
（複数あると便利です。）
- ・筆記用具、記録ノート
- ・カメラ、メジャー など

※ 防災の視点から注意するところは・・・？

地震が発生したとき、危険だと思われるところ

- ・古いブロック塀（倒壊しそうなものには注意を！）
- ・自動販売機（固定されていないものには注意を！）
- ・看板（落下しそうなものには注意を！）

災害時に役立つ機材が保管されている場所など

- ・消火栓や防火水槽・プールなど
- ・地域の防災拠点（市庁舎・支所など）
- ・ホームセンターや近所の工務店など

避難できる場所

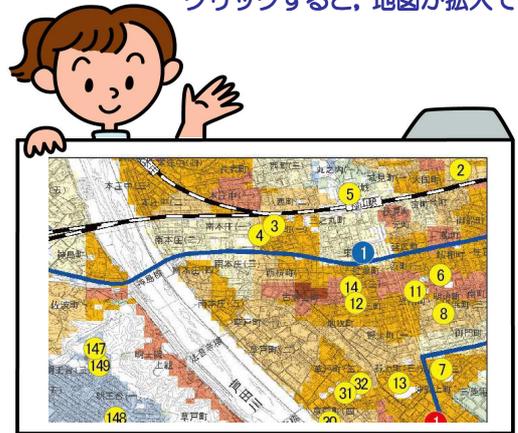
- ・地域の防災拠点（市庁舎、支所）
- ・地域の避難所（学校、公民館など）
- ・広域避難場所や公園、広場など

災害時に役立つところ

- ・病院、診療所などの医療救護機関
- ・コンビニ、スーパーなど

②

自分が住んでいる地域の図郭をクリックすると、地図が拡大できるよ！



③

印刷した地図に書き込みを行い、地域ならではの「ぼうさいマップ」を完成させましょう！



公共施設

- ・消防署、消防出張所
- ・警察署、派出所
- ・その他の公共施設

避難路の確認

地震の被害が大きい場合には、道路上に障害物が散乱します。狭い道路は避難が困難になることから、広い道路を確認しておきましょう！

『地震防災マップ』のほかにも、「津波ハザードマップ」、「洪水ハザードマップ」や「土砂災害ハザードマップ」が、ホームページで公開されているよ！これらのマップも活用しよう！

◆ 住まいの耐震対策

阪神・淡路大震災では、死者の8割以上が建物の倒壊などによる圧死でした。本来、自然環境から私達の生活を守るはずの住宅が、地震によって命を奪う結果となったのです。

あなたの家は、地震が起きても大丈夫ですか？

◆ 地震に対する住まいのチェックポイント（参考例）

1. 建築年の確認

・ 1981年（昭和56年）6月1日に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されています。それ以前の建物は、特に要注意です。



⇒ 積極的に耐震診断を実施し、診断結果に応じた、耐震対策を行いましょう！

2. 壁の量と配置のバランス

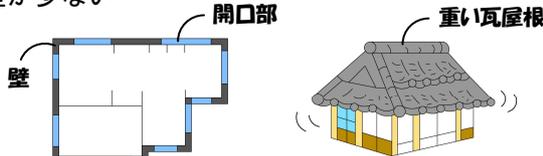
・ 大きな縁側や掃き出しの窓、車庫があるなど壁が少ない部分がある



⇒ 壁の量を増やし、かつ、バランスよく配置しましょう！

3. 屋根と壁のバランス

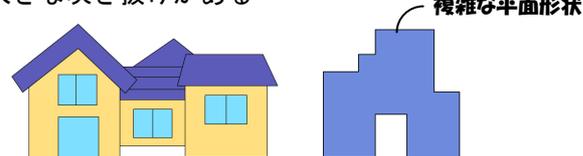
・ 瓦葺きなどの重い屋根に対して、それを支える壁が少ない



⇒ 屋根を軽くしたり、筋交いや構造用合板で強い壁を増やしましょう！

4. 壁の量と配置のバランス

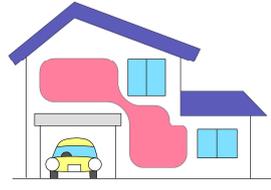
・ 平面形状が整形でなく、複雑である
・ 大きな吹き抜けがある



⇒ 壁や床を増設することで、地震に弱い部分を補強しましょう！

5. 上下階の壁のバランス

・ 1階と2階の壁面が一致していない



⇒ 壁の補強や増設により、2階に加わる力が1階にうまく伝わるようにしましょう！

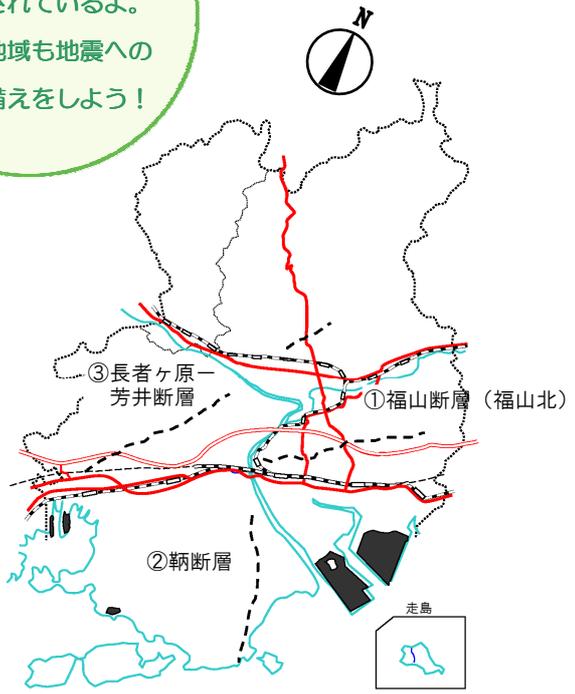
福山市内には3つの断層があると想定されているよ。どの地域も地震への備えをしよう！

◆ 福山市内の断層の位置（参考）

文献※では、本市において3つの活断層があると想定されています。

- ① 福山断層（福山北）
芦田川左岸の北本庄付近から神辺町上竹田付近にかけて西東に約10kmにわたって断層が想定されており、奈良津町には福山衝上断層が確認されています。
- ② 鞆断層
芦田川右岸の水呑大橋南付近から鞆町平地区にかけて北南に約10kmにわたって断層が想定されており、熊ヶ峰山地に沿って形成されています。
- ③ 長者ヶ原一芳井断層
本郷町付近から長者ヶ原（高増山の北斜面）をとおり、芦田川右岸の山守橋付近にわたって想定されており、国土地理院が2004年（平成16年）10月に発表した「都市圏活断層図」においては、御幸町上岩成の福山平成大学北側付近から北東方向に約2km想定されています。

※文献：「新編日本の活断層」活断層研究会（1991）



----- : 活断層
■ : 沖積層の厚さが15m以上の地域

▲ 福山市の軟弱地盤と活断層